

■実践報告

医療機関の地域診断学習会から区内全体の食支援活動へ ～つなぐ・に～よん食支援チームの取り組み～

筆頭演者 大中 湖月¹⁾ 共同研究者 井口 幸子²⁾ 野口 愛³⁾ 結城 由恵⁴⁾

1) 大阪市西淀川区医師会 在宅医療・介護連携相談支援室 2) 西淀病院 MSW 3) 西淀病院 医師 4) 西淀病院 医師

【目的】 地域住民、地域の専門職が「食の大切さ」を知り「口から食べること」をどの健康レベルでも、その人らしい支援を受ける、または支援をすることができる体制を構築する

【背景】 医療機関主催の地域診断学習会をきっかけに、地域包括支援センターと在宅医療・介護連携相談支援室が中心となり区内の多職種で「食支援チーム」を立ち上げ、現在も活動を継続している。

【地域課題の明確化】

地域診断学習会開催 / 西淀病院 主催

・第1回（2019年11月）
区内の問題点と具体策について

・第2回（同年12月）
「オーラルフレイル」にフォーカス

両日とも地域の多職種・多事業所・行政など総勢70名～80名が参加しグループワークを実施

【食支援チーム立ち上げ準備】

ワーキンググループ立ち上げ打合せ会議（2020年7月）／
地域包括支援センター・在宅医療・介護連携相談支援室
・生活支援コーディネーター 共催

地域診断での問題・課題と各事業で把握している課題の突合と深堀り

支援者側

◆要支援者へ基本チェックリストで評価するが、栄養や口腔へのアセスメントのまで至らない

◆病院・在宅・施設間で共通認識できる食事形態やケアの連携不足

区民側

◆運動機能の改善等の関心は高いが、栄養や口腔の意識は低い傾向

◆食べられなくなった時にどうするか選択に困る

【食支援チーム活動の実際】

参加メンバー

医師・歯科医師・薬剤師・管理栄養士・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・訪問看護師・ケアマネジャー・特養、老健施設関係者・食生活改善推進協議会・老人クラブ連合会・介護者会・病院付属の患者会

【当初の会議】

- I. キックオフ会議（2020/7/6）
II. 全体会議（2020/9/28）

事前アンケート、グループワーク等を実施、作業部会を結成



【方向性が決定】各チーム単位で活動

【リーダー会】 1回／2か月

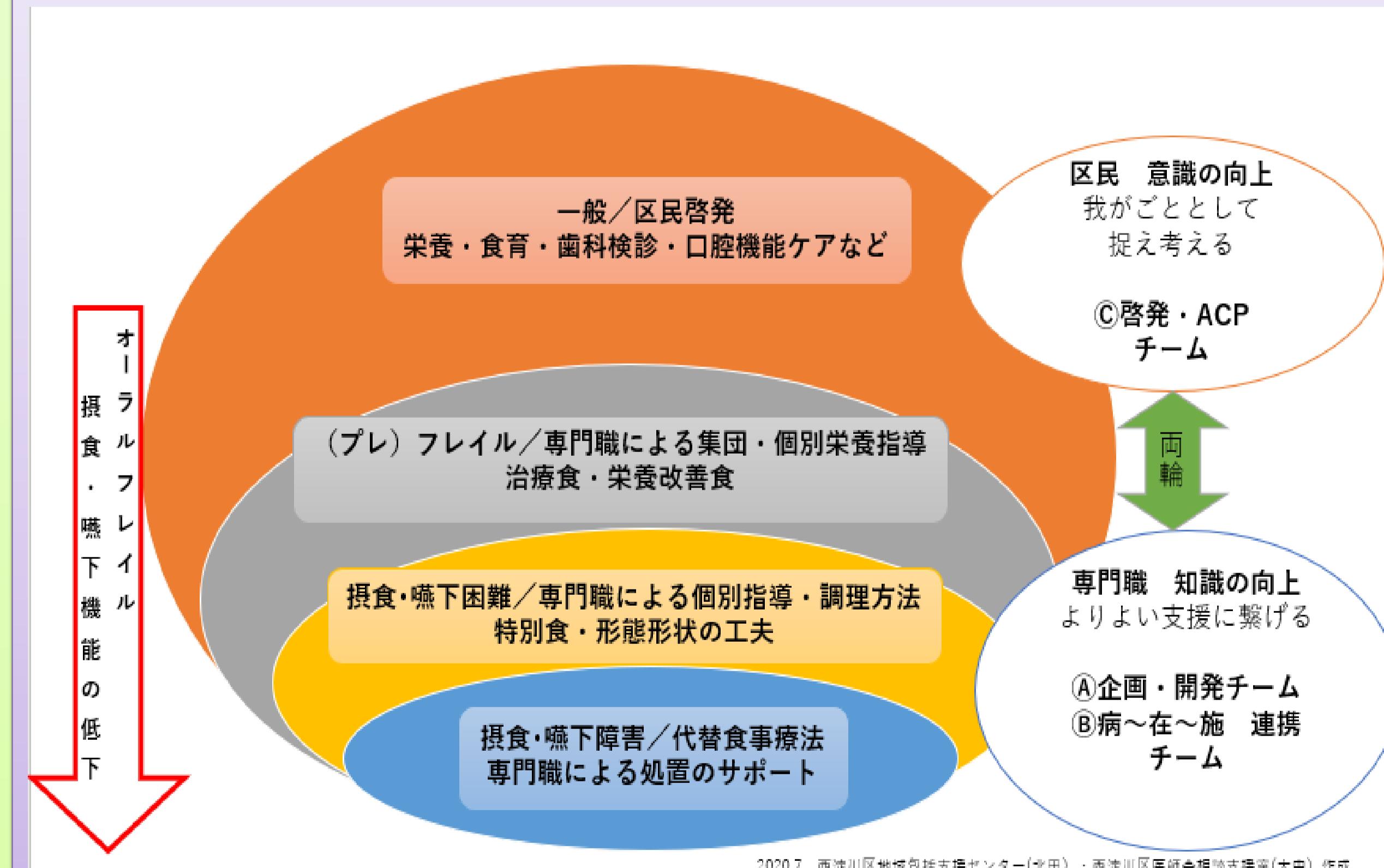
【事例検討会】 適宜実施



現在の活動

目標	①企画・開発チーム	②病～在～施 連携チーム	③啓発・ACPチーム
専門職の知識・アセスメント力が向上する。	病院や施設・事業所間で共通認識のもと食支援ができる。区内で栄養相談可能な拠点ができる。	区民のヘルスリテラシー向上へ繋がる。	
①作成したツールを活用し研修会等で周知する ②摂食・嚥下に関する基礎～応用までの研修	①食支援に関する連携の見える化（基準・評価・ケア等） 調査結果を基に評価基準の検討予定 ②知識・連携向上 Aチームと連携し、症例発表、研修会企画	①オーラルフレイル・低栄養の予防から周知 「楽しく食べやん通信」シリーズ化の配布と周知 ②「食べる」視点からのACPの周知	

全体会議からの方針



【まとめと今後の課題】

- 地域診断学習会が顔の見える関係性構築の大きな動機付けとなった。
- 第2回地域診断のフォーカスを絞ったことにより、より具体的な現状や課題を明確にすることことができ、食支援チーム活動につながった
- 活動を通して、多職種の役割・活動内容がより明確になり、協働する基盤を積み重ねれている。

今後の課題は、持続可能な活動にするため、一部事業所の職員有志で参加しているメンバーのは業務とのバランスが難しいため、仕組みや活動方法を考える必要がある。

お問い合わせ

E-Mail: nishiyodo-med6336@pluto.plala.or.jp 大中 湖月

利益相反(COI)開示
筆頭演者名: 大中湖月・井口幸子・野口愛・結城由恵
営利企業・団体にかかるCOIはありません。